

# 世界経済を変えた イギリス産業革命



世界に先駆けてイギリスで始まった産業革命は、経済や社会のしくみを大きく変えてゆく。

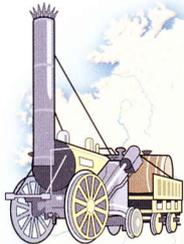
## イギリス産業革命

### イギリス産業革命の要因

18世紀後半のイギリスには、産業革命が起きるのに必要な条件がそろっていた。

産業革命後(1870年ごろ)

- 炭田
- 鉄の採鉱・製錬
- 鉄道
- おもな都市



**ロケット号**  
ステューヴンソン(1781〜1848年)が1829年に製作した蒸気機関車。リヴァプールとマンチェスターを結ぶ鉄道で使われた。



**豊富な労働力**  
農村での囲いこみ(第2次)により土地や仕事を失った農民が、新たな工業労働者となった。

**豊富な資源**  
石炭や鉄鉱石など、工業の原料や燃料となる地下資源が豊富にあった。

**経済活動の自由**  
2度の革命(ピューリタン革命と名誉革命)をへて、中世的な商業特権やギルドがなくなった。

**自然科学の発達**  
ニュートン力学に代表される近代科学・思想の発達が、技術革新の下地となった。

**市場の拡大**  
北米やインドなどに植民地を得ることで、広大な市場が形成されていた。

**資本の蓄積**  
マニファクチュアの発達や、大西洋の三角貿易をはじめとする国際商業の発達により、資本が蓄積されていた。

### 産業革命 3つの革命

- 技術** 紡績機の発明  
飛び梭(ひ)や力織機が登場。
- 動力** 蒸気機関の発明・改良  
水力から蒸気機関へ転換。
- 交通** 鉄道の開通  
蒸気機関車や汽船が登場。

### イギリス産業革命の展開と影響

「世界の工場」イギリス  
ボックス=ブリタニカ

資本主義の確立  
産業資本家の台頭

労働運動の高揚  
社会主義・共産主義思想の誕生

労働問題・社会問題の発生  
低賃金と労働者の酷使  
児童労働 生活環境の悪化

産業革命の波及  
フランス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本など

### 産業革命で「世界の工場」になったイギリス

18世紀後半にイギリスで始まった産業革命は、世界を大きく変えることになった。産業革命とは、機械制工業の急速な発達によって生産性が増し、資本主義社会への移行が進むことである。

イギリスには、早くから毛織物などのマニファクチュア(工場制手工業)が発達して資本が蓄積されていたこと、第2次囲いこみによって農村に余剰人口が生まれ、工場での労働力を提供できたこと、蒸気機関が改良されて紡績機などに利用されたこと、石炭や鉄鉱石などの資源に恵まれていたことなど、産業革命を可能にする条件がそろっていた。そして、これらの条件によりイギリスでは綿工業、機械工業、製鉄業などが急速に発達した。また、蒸気機関車の発明により、原料や製品が大量に運搬できるようになり、19世紀半ばに改良が進んだ蒸気船とともに、交通革命をもたらし、こうしてイギリスは「世界の工場」となり、工業生産において他国を圧倒するようになる。

イギリスに始まった産業革命は、ヨーロッパ各国のほか、アメリカ、日本にも波及し、世界はイギリスを筆頭とする資本主義諸国と、それに従属する地域に分けられるようになった。このイギリス中心の世界秩序をボックスブリタニカとよぶ。その一方で、産業革命は安い賃金で過酷な労働を強いられる労働者階級を生み出し、貧困層の増大、都市部における社会問題を引き起こした。そして、それらの改善、解消を旨とする社会主義思想が誕生することとなる。

Key Word

### 囲いこみ

中世末期から近世にかけてのイギリスで、2度にわたって行われた農地の変革。共同利用されていた土地に生け垣や塀の囲い(境界)を設け、私有地化すること。18世紀から19世紀初めにかけての第2次囲いこみは、新農法による穀物増産を目的として法的に行われたもので、独立自営農民が没落し、工業労働者として都市に流入することとなった。